

研究シーズ

岩手大学

シーズ名	ブルーベリーの品種による機能性成分の違い	分類：10
所属 / 職 / 氏名	農学生命課程 / 教授 / 壽松木 章	
キーワード	機能性、アントシアニン、高付加価値販売	

どんな技術？

一言アピール

ブルーベリーには多くの品種があり、品種によっておいしさや機能性成分が異なるが、現状が「ブルーベリー」として販売されている。そのためパックにより味に差がある。これからは品種名を付けて販売することが高付加価値販売につながる。

【研究成果の内容】

県内の主要品種について、果実品質、アントシアニン含量を調査し、その特性を明らかにしている。

ブルーベリーには多くの品種があり、品種によっておいしさや機能性成分含量に違いのあることが、県内の多くの栽培品種を分析することで明らかになってきた。しかし、現状は「ブルーベリー」としていろんな品種が混合されて販売されており、パックにより品質に差が出るのが予想される。また、生食に適した品種もあれば加工に適した品種もあるが、そうしたことは栽培・販売上はほとんど考慮されていない。

これからは他の果物と同様に、品種名を付けて販売していくことが高付加価値販売につながると考えられるので、栽培、機能性、マーケティング等の共同研究が必要とされる。

ディキシシー（晩生種）



ブルータ（早生種）



何に使えるの？

ブルーベリーの開園時の販売戦略にあった品種構成の資料となる。

関連特許	なし
関連資料等	